

金沢学院大学・金沢学院短期大学

二〇二五(令和七)年度 入学者選抜試験問題

一般選抜Ⅰ期〈三日目〉

二〇二五年二月五日(水)実施

国 語

I 注意事項

問題冊子は、試験開始の合図があるまで開いてはいけません。

解答用紙の解答科目欄に「国語」と記入・マークしてから解答してください。

問題は1ページから20ページまであります。

第3問、第4問は受験する学科・専攻によって解答する設問が異なりますので、注意してください。

問題は持ち帰ってもよいですが、コピーして配布・使用することは法律で禁じられています。

II 解答上の注意

解答用紙は、マーク式解答用紙と記述式解答用紙の2種類があります。

マーク式の問題で、「解答はマーク式解答用紙 10」と表示のある問いに対して④と解答する場合は、下記の

例のようにマークしてください。記述式の問題には「解答は 記述式解答用紙」と表示がありますので、記述式の

解答用紙に記入してください。

(例)

解答番号	解 答 欄
10	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

問題は次のページからです。

第1問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

著作権の二次利用権許諾を得ていないため、表示しておりません。

著作権の二次利用権許諾を得ていないため、表示しておりません。

著作権の二次利用権許諾を得ていないため、表示しておりません。

著作権の二次利用権許諾を得ていないため、表示しておりません。

問1 傍線部(1)～(5)のカタカナを漢字に改めよ。解答は記述式解答用紙。

(1) コウエン

(2) カンパ

(3) ヘンケン

(4) ドウコウイキョク

(5) ゼンエイ

問2 空欄 に入る語を漢字で書け。解答は 記述式解答用紙。

問3 空欄 (a () () c ()) に入れる語として最も適当なものを、次の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

解答番号は a 1 、 b 2 、 c 3 。

お茶を (a)。

- ① 立てた
- ② ふくんだ
- ③ すすいだ
- ④ にごした
- ⑤ 流した

胸を (b) よいのである。

- ① 貸して
- ② 張って
- ③ なでおろして
- ④ そらして
- ⑤ 借りて

機は充分に (c) と言ってよからう。

- ① 練れている
- ② 熱している
- ③ 熟している
- ④ 漬かっている
- ⑤ 尽くしている

問4 傍線部(ア)「日本のことわざの調子」にはどのような特徴があるか。本文中の語句を使って25字以内で説明せよ(ただし、句読点も一字に含む)。

解答は 記述式解答用紙。

日本のことわざの特徴は、
 (25字以内)
ことである。

問5 傍線部(イ)「学校では原則、ことわざは教えない」と筆者が考える理由として適当なものを、次の①～⑥のうちから二つ選べ。ただし、解答の順序は問わない。解答番号は

4

、

5

。

- ① 学校で教わる知識の方がことわざよりも高級だから。
- ② ことわざをよく使うと、通俗的、常識的な印象になってしまうから。
- ③ “よみ・かき” 中心の学校教育の中に、声を伴うことわざは入り込めなかったから。
- ④ 学校の教える知識とことわざの包んでいる経験の知恵とは次元が違うから。
- ⑤ 文字より声の方が高尚だという価値観がはびこっているから。
- ⑥ ことわざは古くさいものだから。

問6 傍線部(ウ)「ことわざの教育的価値はきわめて大きい」と筆者が考える理由として、最も適当なものを次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は

6

。

- ① ことわざは古くさいが、自然を詠んで人間味に欠けた俳句と違い、人間心理の妙を衝くはなはだ含蓄に富むものだから。
- ② ことわざは経験に基づいた人事全般にわたる知恵の宝庫で、本から得る知識では到底及ばない内容が含まれているから。
- ③ ことわざは先人の経験を統合した結晶ともいえるものであり、どのことわざにも実用的な情報が必ず含まれているから。
- ④ ことわざはへたな社会学以上に世の中を辛い目で見ており、社会心理学の研究論文よりも優れたことを言っているから。
- ⑤ ことわざは、カーライルが言う「最良の教師」として、教育現場で先人の考えを伝える最良の教材であるといえるから。

問7 傍線部(エ)「川柳も条件つきながら可能である。しかし、ことわざを作るのは無理ではないのか」について、なぜ筆者は高校生がことわざを作るのは無理だと考えているか。本文中の語句を用い、次の空欄をそれぞれ指定した字数で埋める形で説明せよ(ただし、句読点も一字に含む)。

解答は 記述式解答用紙。

川柳もことわざも、

(20字以内)

という点は共通している。

ただ、川柳は

(15字以内)

のに対し、ことわざは

(15字以内)

第2問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

真船は男子高の三年生、桐子は近くの女子高の一年生である。演劇部に所属していた真船が、桐子のいた女子高の演劇部に協力を求めたことを切っ掛けに親しくなった。真船の両親は昭和二十年に空襲で亡くなった。独りだけ生き残った真船は、祖父の許もとに引き取られて育った。高校三年生になった真船は、祖父から大学の学費は出してやれないので、大学に行きたかったら、働きながら学ぶことができる夜間学部(大学の二部)へでも行くなり、自分の好きにしたいと告げられる。桐子の家は東京の山の手にあり、戦災で焼かれなかった。

真船が大学の二部へ進むという志願を桐子に打明けたのは、入学試験日の十日程前であった。彼はその暫く前から桐子に話す事を考えておいた上で喫茶店に彼女を呼び出した。寒い日で雨が降っていた。桐子は明るい(イ)緑の傘をさしてやって来たが、先に店に着いて入口の硝子扉がらす越しに見えている真船の眼に、傘をすぼめる時の彼女は何か口笛でも吹いているような表情に見えた。

「冷えるわね。わざわざ電話下さって、お話って何」

桐子は性急に手をこすり合わせた。真船は、(イ)こういう雰囲気は、考えて来た話するのに適当ではないと思しながら、強いてそれを押し切るような気持で話し始めた。しかし、桐子は彼の言おうとした半ばまでも言わせなかった。

「そう、これからずっと自分でやって行くのじゃ大変ね。でも、別段慰めようなんて思わないけど、昼間の勤めで何処か面白い所を探したら、その方が却って面白いんじゃない。学校なんか、どっちへ転んでもそう違う筈はずないもの」

「だけど、講義の内容なんか随分違うらしいよ。それに皆勤めてるんだから、友達だって出来るかどうか」

「そりゃ、判らないわよ。だけど決まっちゃった事だとしたら、悲壮がってみても始まらないじゃないの」

「悲壮がってなんかいやしないさ」

真船は殆ど声を荒げたが、その響きには弱い所があった。彼の計画では、祖父に話を聞かされた時から、その日までにさまざま考え、迷いもした事の総てを桐子に語るつもりであった。それを思い附いた当初には、軽く事実を告げておこうという程の気持でしかなかったが、黙って彼の言葉に耳傾けている桐子を想定して、話す内容を考えているうち、そうして自分を晒さらす事で、桐子との間がより緊密になるかも知れないという期待が自然に芽生え、育って行った。しかも、一方で何を話すにしても桐子に同情を強いるような言い方だけはしたくないという気持も強かった。それ故、彼を悲壮がっていると見た桐子の

一言は、真船のかなり独断的な期待をかき消すと同時に、(ウ) 彼が内心怖れていた最も弱い点を衝く結果となったのである。彼は、(エ) こんな女に打明けようとしたのが間違いだっただと思おうとしたが、それも弱かった。

そうなればもう話す事はなく、その日の出会いは奇妙な結果に終わった。これから友達の所へ行くと言う桐子と別れて、真船には、見たくもない受験勉強のための参考書の類が散らばっている自分の部屋以外行く所がなかったが、恐らくは火鉢に火もないに違いないと思うと帰る気にもなれず、また近くの喫茶店の扉を押した。

その店は狭く、暗かった。真船は隅の席に坐^{すわ}って熱い紅茶を頼み、それを啜^{すず}った。暮れ方近くまで桐子と一緒にいる気^きで出て来ながら、三十分足らずで別れて、独りでこうしている自分がひどく滑稽^{こっけい}に思われた。同じく気持が通じぬにしても、今少しましな手だてはなかったものかと思う上に、彼に背を向けて去^さっていく桐子の肩の上で廻^{まわ}っていた(オ) 緑の傘のかたち^{かたち}が、色鮮やかにかぶさっていた。そして、ふと彼は、これで自分の心を開かせる相手が周囲に誰もいなくなつたのに気が附いた。

二十歳にも満たぬ者が自分は孤独だと思ふ時、その多くには感傷の色が濃い。真船も、そういう感傷にまみれた心でしきりに桐子を思い、そこに偽らない心を明かす対象を見出そうとしたのである。しかし、それも無為に終わったとすれば他に考え得る相手はなく、出口を失つた彼の感情は、徒^{いたず}らに彼の裡^{うち}だけで波打った。その感情は悲しみに似ているという気が一瞬よぎつたが、彼は直ぐ、そう考える事を自分に固く禁じた。

時間をかけて紅茶を飲み終り、更に水を二杯飲んで外へ出ると、幸い日は短く、漸^{ようや}く暮れ際の靄^{もや}が漂っていた。夜、彼は桐子に手紙を書こうと試みた。桐子も筆まめな方で、よく彼の許に書いて寄越した。しかしそれは概^{おおよ}ね葉書に限られていて、何時も挨拶も前置きもなく、用件や、何か閑^{ひま}な折に思い出したらしいような感想が書き流してあった。真船も努めてそれに返事を出したが、彼は先ず前略とか時候の挨拶とかを冒頭に置かなければ、後の文章が書けなかつた。要するに、彼は桐子に対して I ではあり得なかつたと言える。その夜も最初に、「一番寒い二月も終わったのに、冷え込む日が続きますね」と書いた。そして少し考えて(カ) 末尾の「ね」を消す事にして初めから書き改め、その後に「先日はつまらない用件で呼び出してすみませんでした」と継いだ。それから先は、前夜、桐子と会って話すべく用意しておいた事の一切を次々に書いて行つた。一昼夜前に反芻^{はんそう}しつつし、他人にも判るように整えられたと思つた彼の感情は、その日一日の経験によって更に熟れたような感じがあり、筆は彼の予想を越えて滑った。二時間後、彼は大判の便箋^{びんせん}五枚を細かい文字で埋めていた。それを角封筒の封じ目が逆さにならないように気を配りながら納め、表書きを書いてから牀^{とこ}に就いた。直ぐに眠れたのは、矢張り彼が若かつたからであらう。

しかし、(キ) 彼はこの手紙を結局出さなかつた。翌^{あぐ}朝起きて、何かふさわしからぬ事を書かなかつたかが気に懸り始め、一度閉じた封を切つて見る彼の

眼に、つい何時間か前に自分の書いた文字が、便箋の面から浮き立って来るようであった。筆の動くに任せたため、乱れた個所も多い文字は、彼の心の動きを実に鮮明に刻んでいた。読みながら彼は、自分は意識の底でこんな事を考えていたのかと何度も思い、それ等が総て、他には誰も自分を理解してくれる人がいないのだと思ひ込んでしまった人間の悲鳴に近いものであるのに愕然がくぜんとした。

(高井有一『浅い眠りの夜』による。一部改変。)

問1 傍線部(イ)「こういう雰囲気」とはどういうことか。次の①～⑤のうちから、最も適当なものを一つ選べ。解答番号は 7。

- ① 寒い日で雨も降っており、冷静に話を聞いてもらおうとしても、どうしても桐子の気持ち暗くしてしまうような雰囲気。
- ② 大学入試直前の時期なので勉強しなければというあせりが一方にあり、彼女との話に集中することが難しい雰囲気。
- ③ 忙しい桐子をわざわざ喫茶店に呼び出したことに加え天候も悪いので、責任を感じて口が重くなるような雰囲気。
- ④ 話の内容よりも、喫茶店で二人だけになることに対する桐子の反応ばかり気になってしまふ緊張した雰囲気。
- ⑤ 桐子に気分が浮き立っているような様子が見受けられ、じっくり話を聞くような落ち着きを感じられない雰囲気。

問2 傍線部(ウ)「彼が内心怖れていた最も弱い点」とは、どのようなことか。答えとなる次の一文の空欄に当てはまる語句を15字以内で書け。

解答は 記述式解答用紙。

桐子が真船の話の目的を、

と考えること。

問3 傍線部(エ)「こんな女に打明けようとしたのが間違いだったのだと思おうとしたが、それも弱かった」とあるが、その理由について次の①～⑤のうちから、最も適当なものを一つ選べ。解答番号は

ちから、最も適当なものを一つ選べ。解答番号は 8。

- ① 桐子に面と向かうと気圧されて強い態度を取れないから。
- ② 桐子に対する好意が無くなってしまったわけではないから。
- ③ 桐子の日頃の判断力への信頼が損なわれたわけではないから。
- ④ 桐子の洞察力を甘く見過ぎた自分のせいだと分かっていたから。
- ⑤ 桐子へ何を伝えたかったのか自分でも分からなくなっていたから。

問4 この文章は傍線部(ア)と(オ)の二箇所「緑の傘」が出てくるが、本文中でこれらの「緑の傘」は何を表しているか。次の①～⑤のうちから、最も適当なものを一つ選べ。解答番号は

も適当なものを一つ選べ。解答番号は 9。

- ① 胸の内を打ち明けようとする真船を弄ぶかのような、気まぐれな態度を桐子が行っていること。
- ② 言葉とは裏腹に、桐子が実は劣等感を抱いている真船を元気づけようと思っていること。
- ③ 真船の自分への思いに気づいておらず、桐子は彼を友達の一人として軽く考えていること。
- ④ 暗く孤独な真船の状況と対照的に、若々しく明るい世界に桐子が生きているということ。
- ⑤ 大人の世界に先に一步踏み出した真船とは違い、桐子はまだ少女の世界に留まっていること。

問5 空欄 I に当てはまる語を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 10。

- ① 自然
- ② 真剣
- ③ 非礼
- ④ 無垢
- ⑤ 詩人

問6 傍線部(カ)「末尾の「ね」を消す事にして」とあるが、その理由について次の①～⑤のうちから、最も適当なものを一つ選べ。解答番号は 11。

- ① いちいち相手の同意を得ようとする感じが、自分でも卑屈過ぎる態度のように思えたから。
- ② 単なる最近の季節の話題に感嘆していることが、さすがに大げさすぎると思ったから。
- ③ 馴れ馴れしい感じがして、桐子がその人間関係の近さを受け入れてくれるか不安だったから。
- ④ 手紙ではあまり使ったことのない言葉遣いだったので、いつもの調子で筆が滑らなかったから。
- ⑤ 日常会話のようなくだけた感じがして、今書こうとしている形式張った手紙文からは浮いてしまうと感じたから。

問7 傍線部(キ)「彼はこの手紙を結局出さなかった」とあるが、その理由について書かれた次の文の空欄に当てはまる語句を、15字以上20字以内で書け。

解答は 記述式解答用紙。

翌日、読んでみると、前日桐子が嫌った

文章に思えたから。

第3問、第4問は受験する学科・専攻によって解答する設問が異なりますので、注意してください。

【大学】 情報工学科

経済学科

経営学科

文学科（英米文学専攻・心理学専攻）

教育学科

芸術学科

スポーツ科学科

栄養学科

【短大】 現代教養学科

食物栄養学科

幼児教育学科

上記学科・専攻の受験者は、第3問を解答しなさい。

（14 ページ～16 ページ）

【大学】 文学科（日本文学専攻、歴史学・考古学専攻）の受験者は、第4問【古文】を解答しなさい。

（17 ページ～20 ページ）

第3問 次の資料は、渡部裕子（書家）、深月ともみ（児童文学作家）、酒井敏（司会・中京大学教授）による鼎談「文化の創造は〈遊び〉から」の一部を抜粋したものである。これを読んで、後の問いに答えよ。

深月 今、こう自分の回りを見ていて、自分の経験したごっこ遊びなんかとどっか違う。今の子どもたちの間で流行っている遊びより、ごっこ遊びの方が面白そうだな、とか感じませんか？ 元気がないと言うか……。

渡部 今、普通にゲームですもんね。しかも一人一個。それがポイントなのかな、とは思いますが、いきなりすごく高いレベルのものを与えられちゃっている気がするんですよ。3Dだったりとか。ある意味羨ましいなって思う。最初からこんなに美しい絵とか、飛び出す絵とか、すごい音響とか。でもそれって、想像力を抑えられているのか、逆に増やされているのか、どっちなんだろうって思ったりもします。

深月 確かに、もう完成されているものを与えられているので、自分で敢えてそれを補足しようとか、あんまりない感じしますよね。この間、小学校に取材に行つて驚いたんですけど、低学年の教室の黒板が上下二段になっているんですよ。ウチらの頃って、理科室とかだけでしたよね。

渡部・酒井 （頷く）

深月 低学年の子って背が小さいから、上の方の字って、椅子を持ってくるとかして頑張つて消さなきゃいけないじゃないですか。でも、ピーツて下げちゃつて消せるんで便利だけど、自分で考えて工夫するとか、小さな創造の機会が減っていると思うんです。

酒井 ゲームでは、画像でも世界観でもどんどんリアルになっている。自分でブロックを積んで作ったドールハウスは自分の思った通りの形になってはいる。しかし、それでいいことにする。我慢するって言うより、理想の姿に見立てる。聞きながら思ったんだけど、成長の次のステップに向かう上で、そういう力って大事なんじゃないか。

渡部 そうですね。いい意味で完成されていないというか、想像力で補う。

酒井 ゲームだと、とつても見事なキャラクターが出来上がっていて付け加える要素がない。でも自分で描くなら、最初単に丸だったものに手足が生えてくるとか、付け足していける。その工夫に発見がある。

渡部 「ゲルニカ」もそうですね。でも、改めて見ると、なんか自分でも描けるんじゃないかって思う（笑）。特に小さい頃、ミロとかピカソって、ピョピョっと描いているんじゃないの、とか思った。今は技術の高さやデッサンの正確さがわかるけど、そんな風に思った記憶はありますね。

酒井 「ごっこ」と言うより、真似する感じかな？

渡部 そうそう。これくらいならできるんじゃないか。でも実際描いてみると、しっかりしたモチーフがないと、本当にただの弱々しい落書きになってしまふ。どれくらいのめり込むかが大事になってくるのかな。そうすると。

深月 あー、確かにそうですね。人形ごっこかでも、二階建てになり三階建てになり、のめり込めばのめり込むほど、きつと面白い。

渡部 ベッドはどうしようとか、叔母さんも家族に追加しようとか。やたら具体的になったり。予め全体ができちゃっていると、もう膨らませないけど。

深月 想像力、どっかで止められちゃうみたいな感じ。

渡部 わかるわかる。私がゲームをあんまりやらないせいかも知れないけど、ゲームってプログラミングされているじゃないですか。遊ぶ人の予想以上に広いんですけど、必ず限界があって、その先に行けない。私たちの子どもの頃のごっこ遊びは、何て言うか展開が予測不能で、ルールも何も臨機応変に変えられる。そこが一番面白いところだった。

酒井 最初にブームになった^(注)スペースインベーダーというゲーム、僕が大学生の頃に登場したんだけど、やってみて、すぐ飽きた。勝てないから。どんなに工夫しても、最後はこっちが全滅して終わり。

渡部 そうなんですよ。そうじゃないとゲームじゃないんですってね。

深月 でも、ごっこ遊びだと、着せ替えで「どう、きれいでしょ。最新流行よ」なんて言っても、「あら、それは去年の流行よ」とやり返される。口でやり合うみたいところが〈遊び〉になっていて、どんどん変わってゆく。

酒井 まさにプログラミングされているのとは違う。

(酒井敏編『子どもと〈遊び〉』による。一部改変。)

(注) スペースインベーダー——日本だけでなく世界中で大ヒットした元祖シューティングテレビゲーム。「迫りくる敵(インベーダー)を撃ち、陣地を守る」というシンプルなもの。

問 鈴木さんは、この資料を読んで、「遊び」について自分の考えをまとめるために、深月、渡部、酒井の三人の考えの共通点と相違点を次のように整理した。

空欄 I

V

に適切な語句を、それぞれ15字以上25字以内で書け。(ただし、句読点や記号も一字に含む。) 解答は記述式解答用紙。

【共通点】

〈昔のごっこ遊びの価値〉

昔のごっこ遊びは、

I

ため、想像力が発揮されやすいと共感している。

〈現代のゲームや遊びの課題〉

現代のゲームや遊びは、

II

ため、想像力が発揮されにくくなっていると懸念している。

【相違点】

〈渡部〉昔のごっこ遊びの一番の面白さは、

III

ところであると捉えている。

〈深月〉上下二段の黒板は便利だけれど、

IV

と問題視している。

〈酒井〉昔のごっこ遊びで発揮される

V

を成長に大事な要素として強調している。

第4問【古文】 次の文章は『徒然草』の一節で、慈悲の心について述べている。これを読んで後の問いに答えよ。

(注1) 雅房大納言は、才かしく、よき人にて、(ア) 大将にもなさばやとおぼしけるころ、(注2) 院の近習なる人、「ただ今(a) あさましきことを見侍りつ」と申されければ、「何事ぞ」と問はせ給ひけるに、「雅房卿、(注3) 鷹に飼はんとて、生きたる犬の足を切り侍りつるを、中垣の穴より見侍りつ」と申されけるに、うとましく憎くおぼしめして、日來の御気色も違ひ、昇進もし給はざりけり。さばかりの人、鷹を持たれたりけるは思はずなれど、犬の足は跡なきことなり。(イ) 虚言は不便なれども、かかることを聞かせ給ひて、憎ませ給ひける君の御心はいと尊きことなり。大方、生けるものを殺し傷め闘はしめて、遊び楽しまん人は、畜生残害の類なり。よろづの鳥獸、小さき虫までも、心をとめて有様を見るに、子を思ひ、親をなつかしくし、夫婦をとまなひ、妬み怒り、欲多く、身を愛し、命を惜しめること、ひとへに(注4) 愚癡なるゆゑに、人よりもまさりて甚だし。かれに苦しみを与へ、命を奪はんこと、いかでかいたましからざらん。すべて一切の有情を見て、慈悲の心なからんは、人倫にあらず。

(注5) 顔回は、志、人に労をほどこさじとなり。すべて人を苦しめ、物を虐ぐること、(b) いやしき民の志をも奪ふべからず。また、いときなき子をすかしおどし言ひ恥づかしめて、興ずることあり。(ウ) おとなしき人は、まことならねば、ことにもあらず思へど、幼き心には、身にしみて恐ろしく、恥づかしく、あさましき思ひ、まことに切なるべし。これをなやまして興ずること、慈悲の心にあらず。おとなしき人の、喜び、怒り、悲しび、樂しぶも、皆(注6) 虚妄なれども、誰か(注7) 実有の相に着せざる。身をやぶるよりも、心をいたましむるは、人をそこなふことなほ甚だし。病を受くることも、多くは心より受く。ほかより来る病は少なし。薬を飲みて汗を求むるには、しるしなきことあれども、一旦恥ぢ恐ることあれば、必ず汗を流すは、心のしわざなりといふことを知るべし。凌雲の額を書きて白頭の人となりし(c) ためし、なきにあらず。

(注) 1 雅房大納言——土御門雅房(一二六二〜一三〇二)。

2 院の近習——院(ここでは後宇多上皇か)の近臣。

3 鷹に飼はん——鷹の餌にしよう。

4 愚癡——おろかで道理を知らないこと。

5 顔回——中国春秋時代の人。孔子の高弟。

6 虚妄——虚像・幻想。

問1 二重傍線部 (a) () (c) の解釈として最も適当なものを、それぞれ①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は a 、 b 、 c 。

(a) 「あさましき」

- ① 見覚えのある
- ② めったにない
- ③ 驚きあきれる
- ④ 初めての
- ⑤ 納得できない

(b) 「いやしき」

- ① 貪欲な
- ② 気が置けない
- ③ 怠惰な
- ④ 多くの
- ⑤ 身分が低い

(c) 「ためし」

- ① 事実
- ② 先例
- ③ 試練
- ④ 珍事
- ⑤ 経験

問2 傍線部(ア)「大将にもなさばや」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

15。

- ① 雅房が、大将になりたいと考えている。
- ② 雅房が、自分が大将になるのではないかと考えている。
- ③ 院が、雅房を大将にしたいと考えている。
- ④ 院の近習が、雅房を大将にしたいと考えている。
- ⑤ 院の近習が、雅房が大将になるのではないかと考えている。

問3 傍線部(イ)「虚言は不便なれども、かかることを聞かせ給ひて、憎ませ給ひける」の中に含まれていないものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は

16。

- ① 形容動詞の活用語尾
- ② 使役を表す助動詞
- ③ 過去を表す助動詞
- ④ 尊敬を表す助動詞
- ⑤ 尊敬の補助動詞

問4 傍線部(ウ)「おとなしき人は、まことならねば、ことにもあらず思へど」の現代語訳として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は 17。

- ① 物静かな人は、本当のことではあるが、心配しなくてよいと思
- ② 物静かな人は、本当のことではないとして、些細なことだと思
- ③ 成長した人は、本当のことではないので、何でもないと
- ④ 成長した人は、本当のことなので、大変なことだと思
- ⑤ 成長した人は、本当のこととは異なるので、意外なことだと思

問5 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 18。

- ① 雅房は鷹を飼ってはいなかった。
- ② 鳥獣や虫も、人間同様に自分の命を惜しむものだ。
- ③ 顔回まは高適まいな理想を掲げ、多くの人に苦勞をかけた。
- ④ 肉体をそこなう方が心を傷つけるよりも害が大きい。
- ⑤ 薬を飲めば必ず汗を流すことができるとは限らない。

問6 『徒然草』と同時代頃に成立した作品として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 19。

- ① 『方丈記』
- ② 『奥の細道』
- ③ 『枕草子』
- ④ 『古今和歌集』
- ⑤ 『とはずがたり』

2025(令和7)年度 金沢学院大学・金沢学院短期大学
一般選抜 I 期 (3日目/2025年2月5日実施)
解答例【マーク式】

国語 【国語総合】			
解答番号		正解	配点
第1問	1	④	2
	2	②	2
	3	③	2
	4	③	3
	5	④	3
	6	②	3
第2問	7	⑤	3
	8	②	4
	9	④	4
	10	①	3
	11	③	4

国語 【国語総合+古文】			
解答番号		正解	配点
第1問	1	④	2
	2	②	2
	3	③	2
	4	③	3
	5	④	3
	6	②	3
第2問	7	⑤	3
	8	②	4
	9	④	4
	10	①	3
	11	③	4
第4問	12	③	2
	13	⑤	2
	14	②	2
	15	③	3
	16	②	3
	17	③	3
	18	⑤	3
	19	⑤	2

マーク	33
記述	67
計	100

マーク	53
記述	47
計	100

記述式解答用紙 「国語」

志望学科	受験番号
学科	氏名
専攻	専攻

※専攻は「経済学科」「文学科」「教育学科」受験の場合に記入してください。

第1問

問 1	1	講演	3	偏見
4	2	看破		
5		前衛		
		同工異曲		

各3点

問 2

弘法

3点

問 4

句中に間や切れ字を置き、さまざまなリズムを作る。
25

5点

問 7

川柳もことわざも、音声中心の定型表現で、人間を詠む。
20

4点

経験がなくても作ることができるといえる。
15

4点

経験がないと作ることができない。
15

4点

第2問

問 2

自分の同情を引くもためものだ。
15

6点

問 7

自分の淋しさを一方的に訴えるような。
20

6点

※第3問の解答欄は裏面です。

